

石井は書籍の注文をするために、書店に電話を入れた。

「はい、青木書店でございます」

「すみません、本の注文をお願いしたいんですけど」

「かしこまりました。それでは書籍名と出版社名をお願いします」

「本の名前が『英会話能力アップ二十の方法』、出版者は曙実業出版社です」

「著者名はおわかりになりますか？」

「宇野愛子です」

「お調べ致しますので少々お待ち下さい・・・お待たせ致しました。ただ今お調べしましたが、宇野愛子という著者名で『能力開発二十の方法』という本は出版されていないようです。及川秋江という名前でしたら登録されているようですが、お名前に間違いはありませんか？」

「すみません！ 著者名は及川秋江になります」

「はい、かしこまりました。そうしますと申し訳ございませんが、こちらの本は在庫切れとなっておりますので、お取り寄せとなりますが」

「取り寄せてもらうとしたら、日数はどれ位かかりますか？」

「早ければ明日の朝一、遅ければ明後日のお昼頃までお待ちいただくようになってしまいます」

「わかりました。では注文をお願いします」

「かしこまりました。それでは、お客様のお名前とご連絡先のお電話番号をお願いします」

「石井悦男(明子)です。連絡先は〇八〇一一三七一八一四一です」

「確認させていただきます。お名前が石井悦男(明子)様、お電話番号が〇八〇一一三七一八一四一ですね。ご注文は曙実業出版社の『英会話脳力アップ二十の方法』こちらの代金が二八四一円となりますがよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、本が入荷出来次第ご連絡させていただきます。担当の大井が承りました。ありがとうございます」

数日後、石井の携帯電話に青木書店から電話が入った。

「はい、石井です」

「こちら青木書店と申しますが、石井悦男(明子)様でいらっしゃいますか？」

「はい、石井です」

「こちら青木書店でございます。先日ご注文いただきました書籍が入荷されましたので、石井様のご都合の良い日に一階奥のサービスカウンターまで取りにお出度ください」

「はい、わかりました。」

「お待ちしております。失礼致します」